

授業者コメント

実習生は、作成する視覚教材にパネルシアターを選んだ。実習生が全9回に分け、10分程度の読み聞かせを毎日の帰りのあつまりの際に行った。



<実習生の読み聞かせ初回の様子>

実習生の読み聞かせを見た子どもは、動物や道具が登場するたびに「うわ〜」と歓声をあげ、「次は〇〇だよ」など動物や道具の登場に期待していた。

しかし、パネルシアターの道具がロッカーの上に置かれていたり、立って読み聞かせをしていたり、読む前に前日までの振り返りなどもなかった点を学生に指導した。

その後実習生は、台にカゴを取り付けて取り出しやすくし、椅子に座って、落ち着いて読み聞かせを行うようになった。また、読み始める前に振り返るポイントはクイズ形式で、何が出てきたか、どんな道具を使ったかななどを尋ねるようになった。

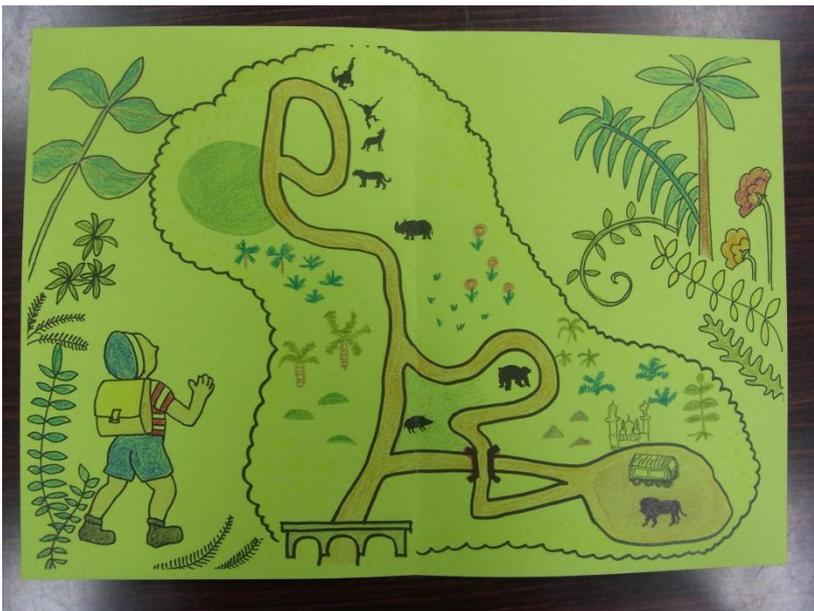
反省の中で実習生は、子どもにとって見やすく落ち着いた環境を構成することが大事であるということに気付いた。「エルマーのぼうけん」を毎日読み進めることで、実習生は日々試行錯誤しながら実践を積み重ねることができた。



<指導後の読み聞かせの様子>

読み聞かせの時間以外にも、保育室内に大きなエルマーの地図を置いておいた。子どもは毎朝地図を見ながら、前日の物語を思い出したり、友達と次に出てくる動物は何かを話したりして、続きを楽しみにしたりしていた。

「エルマーのぼうけん」のパネルシアターを用いて何日かに分けて読んだことで、子どもは物語への興味を持続させながら楽しむことができた。



<どうぶつじまのぼうけんの地図>



<園外保育の様子>

また動物園への園外保育では、「エルマーのぼうけん」をモチーフにした「たまどうぶつじまのちず」というものを作成した。子ども達はそれを手掛かりに、「エルマーに出てきたやつだ!」「次は〇〇だよ!」と動物たちに興味をもって見ている。